

あ ち 阿智 (阿智神社)

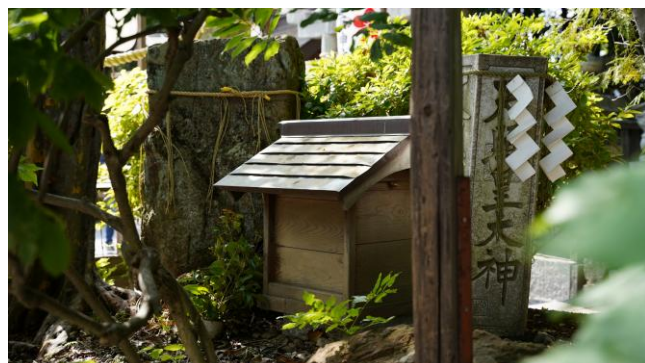
～阿智使主（あちのおみ）族が奉斎
したとされる祭祀遺跡～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 阿智神社
5. アクセス



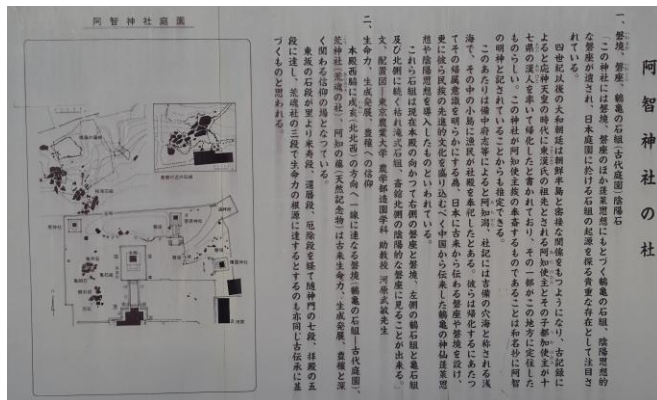
初版：2025.11.3



1. おすすめポイント

★原初（社殿ができる前）の地表面と磐座、
そして日本庭園の起源を示唆する石組など
古代の歴史が境内に凝縮

★4月頃には薄紅色の「阿知の藤」が綺麗です



2-1

現地説明板

文章部分拡大

阿智神社の社

一、磐境、磐座、鶴亀の石組(古代庭園)陰陽石

「この神社には磐境、磐座のほか蓬萊思想にもとづく鶴亀の石組、陰陽思想的な磐座が遺され、日本庭園に於ける石組の起源を探る貴重な存在として注目されている。

四世紀以後の大和朝廷は朝鮮半島と密接な関係をもつようになり、古記録によると応神天皇の時代に東漢氏の祖先とされる阿知使主とその子都加使主が十七県の漢人を率いて帰化したと書かれており、その一部がこの地方に定住したものらしい。この神社が阿知使主族の奉斎するものであることは和名抄に阿智の明神と記されていることから推定できる。

このあたりは備中府志等によると阿知瀉、社記には吉備の穴海と称される浅海で、その中の小島に漁民が社殿を奉祀したとある。彼らは帰化するにあたり、その帰属意識を明らかにする為、日本に古来から伝わる磐座や磐境を設け、更に彼ら民族の先進的文化を盛り込むべく中国から伝来した鶴亀の神仙蓬萊思想や陰陽思想を導入したものでいわれている。

これら石組は現在本殿の向かつて右側の磐座と磐境、左側の鶴石組と亀石組及び北側に続く枯れ滝式石組、斎館北側の陰陽的な磐座に見ることが出来る。」

文、配置図―東京農業大学 農学部造園学科 助教授 河原武敏先生

二、生命力、生成発展、豊穡への信仰

本殿西脇に戌亥(北北西)の方向へ一線に連なる磐境(鶴亀の石組―古代庭園)、荒神社(荒魂の社)、阿知の藤(天然記念物)は古来生命力、生成発展、豊穡と深く関わる信仰の場となっている。

東坂の石段が里より米寿段、還暦段、厄除段を経て随神門の七段、拝殿の五段に達し、荒魂社の三段で生命力の根源に達するとするのも亦同じ古伝承に基づくものと思われる。



2-3

現地説明板から配置図部分抜粋 拡大

「八木敏乗, 岡山の祭祀遺跡 (岡山文庫 145) .
日本文教出版 (添付資料1) , 1990, p100-101」より
下枠内引用させていただきます。

阿智

倉敷市本町

倉敷市街地のほぼ中央部に、周囲を町並に取り囲まれて、鬱蒼と生い繁る独立丘 (四三郎) があり、その丘頂に南面してこの地域の氏神阿智神社が鎮座する。遺跡 (神石) はこの社の神殿に向かつて右横手、一〇^三ばかり離れた所に在り、神社境内の地盤線より、一段高い所 (約〇・七^三) に在る。

神殿後背部に残る、丘頂の原地盤等から勘案して、丘頂部の原型は南から北へ緩やかな傾斜をしており、現神殿付近の位置が、ほぼ最頂部と考えられ、この地点から約三^三切崩して整地した線が、現神殿の整地面と推定される。

平安期以降は、それまでと異なり壮大な現様式神殿の構築が行われるようになり、地面を均一に整地する必要から、丘頂部を削りならしたものであろう。

本神石 (磐座) は神殿構築に当たり、地盤整

地の際も神石の故をもって、切崩しの難を免がれたものであろう。元的地盤と思われる一段高い不整地の上に十個の列、配石が帯状に並び、神殿に近い側に、一際大きい直立 (地高約一^三) の神石が立ち、他 (九個) は一抱えばかりの石が神殿の向き軸方向に直角、すなわち神石から東へ向かつて蛇行状に配置されている。

この他にも神殿に向かつて右後背と、左後背にそれぞれ一基宛の神石があり、右は直立単石 (地高約一^三) で左の方は複数の寄せ組み石から成る神石 (磐座) である。

この神石は、現在玉垣の外に位置しているが、神殿後背の摂社は、元々この神石 (磐座) を祭ったものと思われる。

このほか、社殿向かつて左側に大小数個の石が組み石あるいは配石状に配置されており、これらも庭園研究者の間で神石と称されている。

これら組・配石は、社殿構築のために丘頂切崩しの際、丘頂部に在った御神体石 (磐座) だ

った石か、整地のために掘削した時に、起こし出された石をもって庭園石組の法則に準拠して組・配石されたものかの、いずれかである。これに比べて、前記三神石は、往古の姿そのままを今日まで残し伝えた神石として、貴重とされるべきである。

3. 現地写真



3-1



3-3



やや左の縄がかけられて
いる石柱が磐座

3-2



3-4



3-5 日本庭園の起源を示唆する石組 手前は「羽石」 (図3-X参照)



「亀頭石」と本殿

3-6



「亀甲石」

3-7

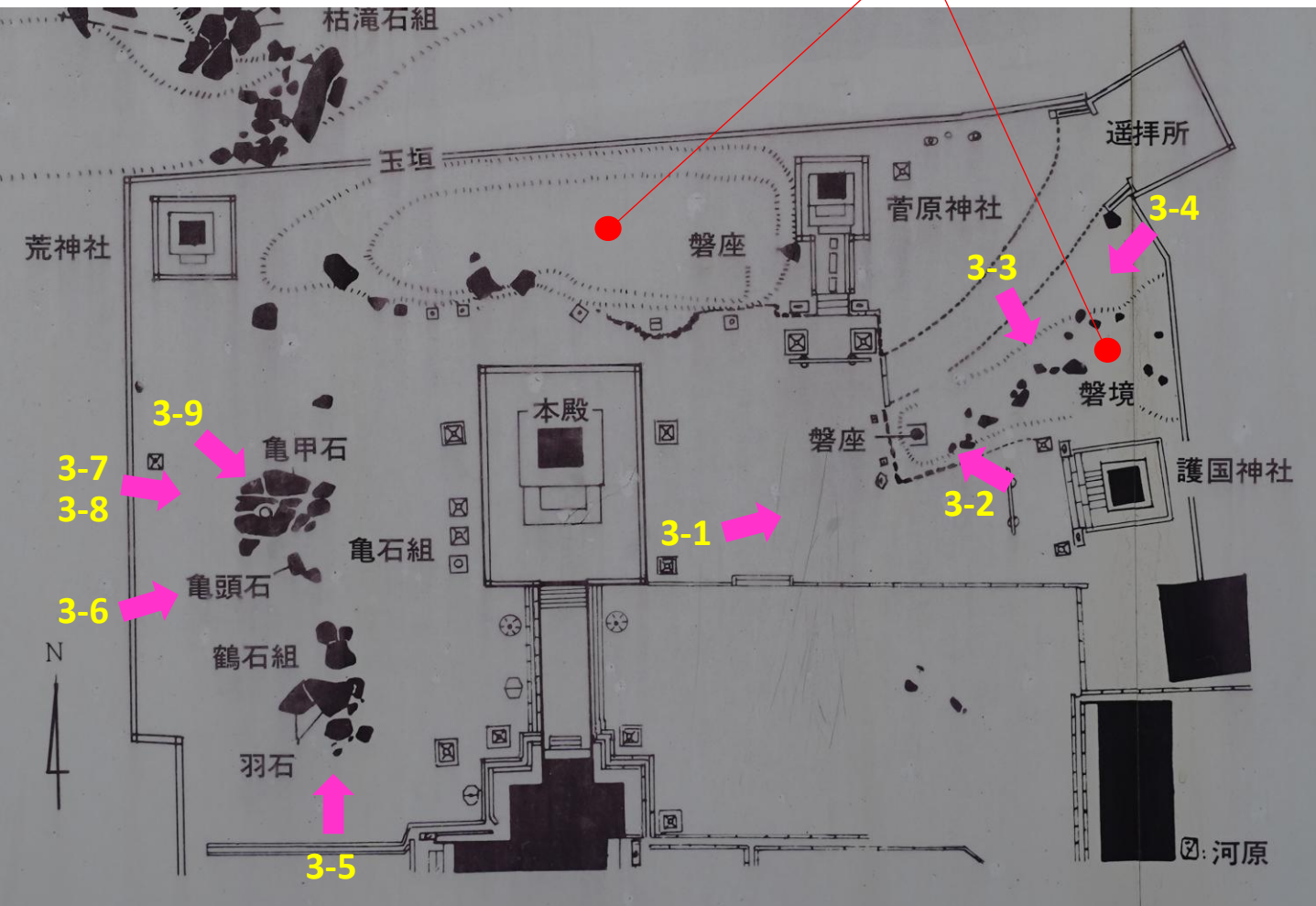


3-8 樹によって引き裂かれる亀甲石、これも運命か



3-9 亀甲石の上では苔を土台に新しい芽生えが

社殿ができる前の原初の地表面



3-10

現地説明板の中から境内見取り図一部を引用
写真撮影の場所と方向、その他情報を追記

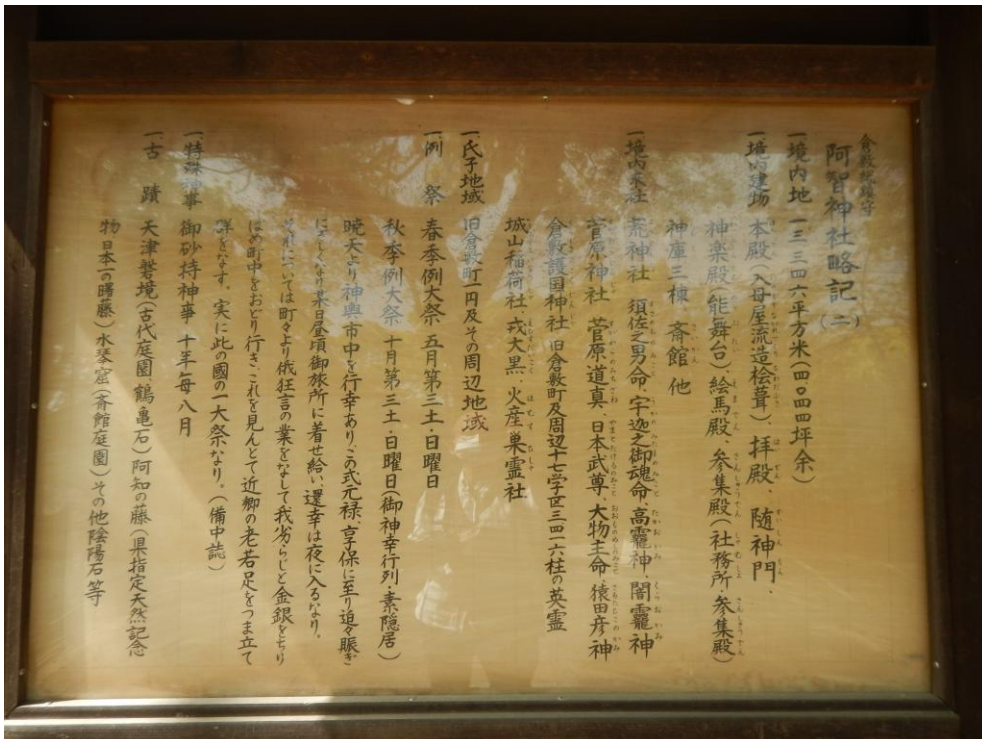
4. 阿智神社



4-1



4-2

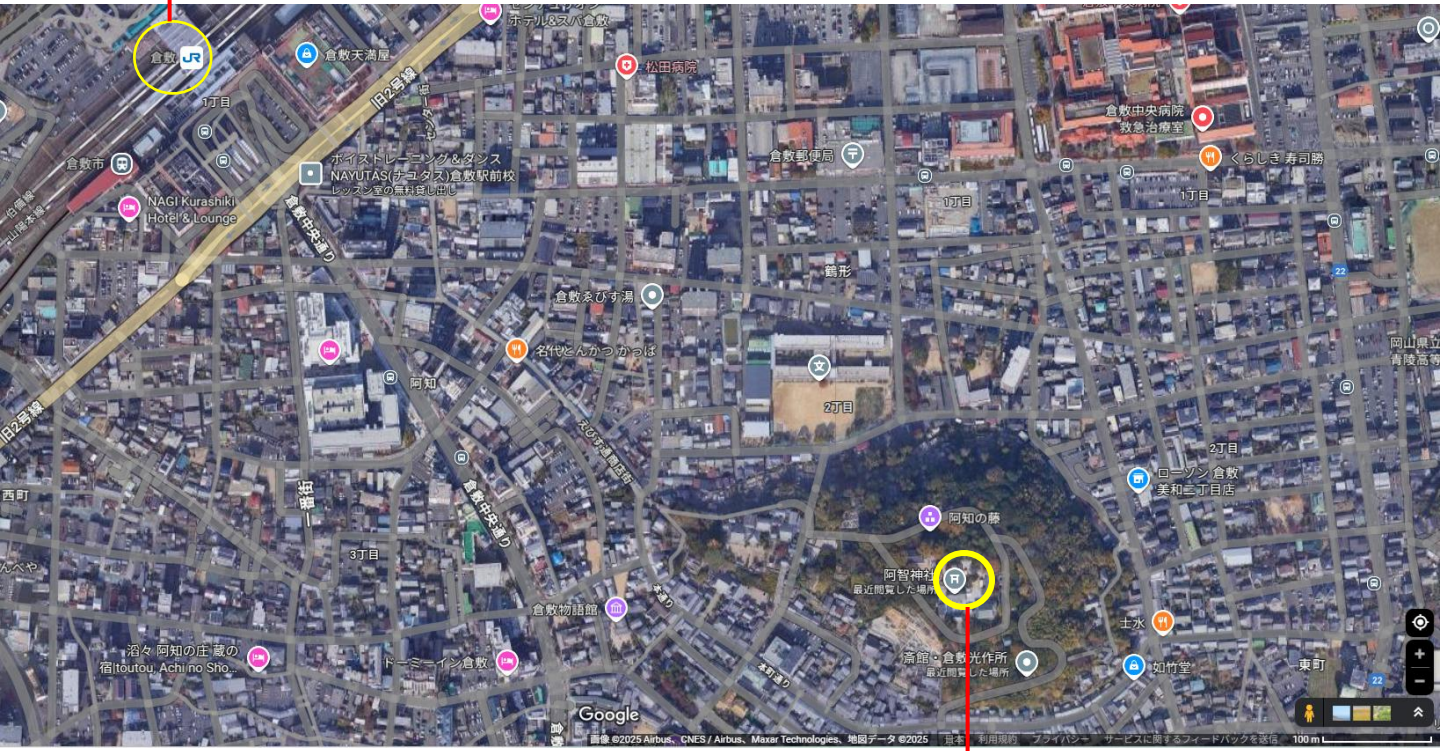


4-3

5. アクセス

- ・ JR倉敷駅から徒歩15分くらい
- ・ 美観地区のすぐそばです

JR倉敷駅



Google Map上に追記

阿智神社磐座

参考文献

- 1) 八木敏乗, 岡山の祭祀遺跡 (岡山文庫 145) .
日本文教出版, 1990, p 173